

新入会員の紹介

犬飼愛生(いぬかいあおい) 京都府出身、大阪芸術大学文芸学科卒(山田兼士ゼミ)。今はなき『詩学』投稿欄に育てられました。第三回詩学最優秀新人受賞。多忙のためいったん退会させていただいた関西詩人協会でしたが、このたび、ご縁があり再入会させていただきますました。ありがとうございます。近々、新刊詩集を刊行予定です。情報や連絡先は「twitter」にて。@aoi_inukasi

中地中(なちちあたる) 45年ぶりの帰阪。往時の記憶を求めてあちこち探訪しています。残念ながら、街並みも人も様変わりしています。「羅生門」「近畿文芸」は廃刊になったのでしょうか。日本ペンクラブ、日本現代詩人会、日本詩人クラブ会員
〒564-0024 吹田市高城町6-4-301

野口幸雄(のぐちゆきお) 1948年2月15日神戸生まれ。退職後にカルチャーセンターで詩を作りはじめた。昨年第一詩集『妻が出かけた日』を出版しました。兵庫県現代詩協会会員、詩誌「風の音」同人。
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町4-4-5-902

たひらこうそう 二十歳前から詩を書くことを強く意識していましたが、書き出したのは八十歳を過ぎてからです。別に後悔はしていませんが、いつまで書けるかが気になります。
〒569-1141 大阪府



高槻市氷室町2丁目48-13 田平様方

山本由美子(やまもとゆみこ) 学生のとき日記に書きとめたものを「詩と思想」に投稿したことに始まり、一九九六年より「ラビーン」同人。第二詩集『霧の中のブルー・BLEU BROUILLARD』を上梓したばかりです。短くも豊かな詩を書くことを目指しています。
〒670-0091 姫路市北新在家二丁目一〇の一



運営委員会の模様

日時2018年4月14日13:30~17時
場所エルおおさか 出席者 17名

①入退者 4名を入会承認し、退会者なし。現会員数280名となる。300名をめざす目標を運営会議で共有した。

②会計 新規加入者の年会費について、加入した月によって不公平感があるため、今後は正に向けて検討することにした。

③会報 前月号、一面の翻訳詩集の募集記事がとてどもわかりやすかったと好評であった。次号より、会員の最新詩集について、140字程度の紹介するコーナーを設け、担当を山田委員にお願いする。対象は、新刊のオリジナル単行本詩集。(全集や翻訳詩集はその対象外とする)・会報の印刷、折り、発送について。発送料金値上げの中、経費削減のため、従来利用していた事業所の変更も含め、運営事務局(永井・釣部委員)で検討、交渉を行う。・発送会報数は、現在700部刷っているが、必要部数や担当者負担軽減により、650部に減らすことで確認。

④詩のイベント 2018年「講演、演奏、朗読の午後」のイベントは、9月16日に開催。内容については、

第1部は講演「みんなちがって みんないいー金子みすゞのうれしいまなざし」(講師矢崎節夫)。第2部は演奏「Fragrance Road」(ふれぐらんす ろーど)。第3部は会員による朗読を予定。
⑤文学散歩 6月9日に、神戸御影西宮など、小説「火垂るの墓」(野坂昭如作)ゆかりの地を散策した。(報告は今回の会報に掲載)

⑥詩話会 6月9日(土) 大阪西区民センターで開催。(報告は今回の会報に掲載)
⑦詩画展 6月8日~6月20日、大阪市立中央図書館で開催中。展示会レイアウトなどについては、現行応募規定にあるように「絵画(写真・絵書)」と「詩」をあわせて、90cm×90cm内に収めることを、次回から、いっそう分かりやすく応募規定に記すことにする。(文責・北村真)

「言葉の花火」の現況と今後の動き

参加者総数が60名になりました(当初の目安、達成)。目下、第一次翻訳者(藤井、すみくら、斉藤、村田)が分担し、作業中。それを、7月中旬ごろに第二次翻訳者(アンガス氏)に送付。
8月下旬~9月初めごろ、第三次翻訳検討会(上記5者全員による会合)を経て、完成。
9月上・中旬ごろ、原作者に最終稿を送付(日本語版活字校正も含め)、点検を乞う。
11月、総会時までに、完成、出版します。

関西詩人協会総会の日時決定

2018年11月18日
キャッスルホテルにて

詳細は次号に。

会員の活動

左子真由美氏・3月11日、京都音楽サークル協議会主催コンサートにおいて詩部門の審査員をつとめる。

以倉紘平氏・3月11日石川詩人会総会で講演「わたしの現代詩作法」をする。

香山雅代氏・4月22日、京都アルティ・ホールにて、日本歌曲振興関西波の会第二回コンサートで香山作品「ゆすらうめ」(高橋通・付曲)「紅の雲」(金藤豊・付曲)演奏。共に関西初演。

北村真氏・詩集『キハーダ』にて宇治市主催・紫式部市民文化賞受賞。

ときめき屋正平氏・4月26日より30日まで、「ときめき屋正平コレクシオン 蔵出し展覧会」が、斑鳩町中央公民館にて、開催された。

永井ますみ氏・4月27日北上市現代詩歌文学館にて朗読会「おお、ことばの花が咲く四月」に参加。

安森ソノ子氏・4月2日、第二十五回世界詩人会議(本部は北米)の共著詩集に英詩を執筆。タイのバンコックでの二〇一八年世界詩人会議に出演と決まる。4月10日、東京にて出版、販売の書籍「花美術館」に詩作品「守るべき家」が小出龍太郎氏の講評入りで載る。

吉田定一氏・NACKシニア展(4・8〜14・マサゴ画廊)油絵F4号・4点出品。「赤い鳥」童謡詩人と田準一について」及び童謡「はえさん」執筆。(児童文学実験誌『ざわざわ』)。「第16回高石市合唱連盟アブラ合唱祭」(6月17日)のオープニングにて、「おはよう! わが高石(まち)」がアブラ大ホールで歌われる。

朗読文化「あい」の会メンバー全員によるイベント。第2回朗読会が、「近代詩 島崎藤村」を取り上げて行った。(5月8日・場所KOKO PLAZA)。賛助参加者の歌、ソプラノ・武岡通子と演奏フルート・原公世による歌「平城山」「ゆりかごのうた」もあって、

会は盛り上がった。参加者は46名あり、一般参加者からの自作朗読は、まさに一声に載せよう心とことばの交流会に花を添えた。最後に、参加者全員で、藤村の「椰子の実」を歌って、会は盛大なうちに幕を閉じた。また、「大文連40周年記念事業」(2018年6月10日)のイベント「朗読「心へ言葉よ響け」の一環として、朗読文化の会「あい」の有志が、奈良少年刑務所詩集『空が青いから白をえらんだのです』をテキストにして詩の朗読を持った。朗読者(朗読者順)は、次の各氏である。嵯峨京子・福田ケイ・安森ソノ子・市原礼子・秋野光子・田村照視・青木春菜・永井ますみ。場所・吹田市文化会館メイシアター 小ホール。

日本国際詩人協会より出版

ドナテッラ・ピズツティ&北原千代(イタリア詩人「命の二重奏」著者)
ヴェチエスラウ・クプリヤノフ&武西良和(ロシア詩人) 2018・5

アドロフ・シュベチコフ&和比古(ロシア系アメリカ詩人と共著『遥の二重奏』、ユニウスより出版) 2018・5
アンナ・バナシアク&加納由将(ポーランド若手女流詩人と共著) 2018・6

教養講座関係
龍谷大学RECセンターで講師を務める上村多恵子、すみくらまりこ「ポエジーを創造する」 2018・6

海外で出版
ルーマニア、クレリア・イフリムが下田喜久美の詩をルーマニア語で出版。 2018・5

国際賞受賞
ナジ・ナーマン文学賞2018 (レバノン)
創造賞 上村多恵子 2018・5 同上
名誉賞 すみくらまりこ

朗読会
第三回「美しい日本語で詩を聴く会」に「涙」の詩を

提供。2018・4
有馬、村田、上村、すみくら、下田、武西、和比古、長岡、司由衣。

詩の実作講座 於阿倍野ベルタ市民学習センター
6月23日(土) 第435回 午後6時〜9時「ことばあそび」講師高丸もと子

7月28日(土) 第436回 午後6時〜9時 鈴木大拙著『日本の靈性』を読む講師藤谷恵一郎

9月22日(土) 第437回 午後6時〜9時「吉永小百合の第二楽章」から講師寺沢京子

10月27日(土) 第438回 午後6時〜9時 吉野弘講師 吉田定一

《今後の予定》

朗読文化の会「あい」の練習日

銀河詩のいえ 7月4日、8月1日、9月5日

新大阪コプラザ 7月10日、8月7日、9月11日と

ちらも午後2時、連絡先 田村照視

EARTH POEM PROJECT 第38回、7月8日(日) 午後

2時〜4時「まつむし音楽堂」(あべのハルカス南1

km tel 0666240559) 出演・下前幸一、武西良和、橋

爪さち子、市原礼子、福田ケイ、志田静枝、永井ますみ、

中尾彰秀

詩を朗読する詩人の会「風」

7月15日 榊次郎と軸の仲間たち。いっしょにわいわ

いとやりましょう。

9月16日 秋元炯。詩集『今昔夢想』から秋元今昔ワ

ールドに浸っていただきます。

村田辰夫氏・8月11日、13時30分から、大津市市民文

化会館において、市主催の「平和祈念講演・戦争体験

を聞く会」で、講演「陸軍少年通信兵学校から中国の

戦線へ」を行なう。

《会員発行の詩誌》

異郷 44号 村上久雄

風の音 16号 野口幸雄

伽羅 17号 吉田定一

呼吸 144号 司由衣

現代詩神戸 261号 永井ますみ

サイプレス 20号 岸田裕史個人誌

軸 127号 原圭治

新燎原 26号 小林尹夫

百円詩集 創刊号 熊井三郎

風鐸 8号 司茜

鈍 78号 呉屋比呂志

三重詩人 242号 伊藤眞司

Messier 49 50 51号 香山雅代

PO 169号 左子真由美

瑠璃坏 11号 青木はるみ

ラビーン 203号 牧田久末

別冊・詩の発見 17号 山田兼士

びーぐる 39号 松村信人

朱雀 23号 西田純

ぼとり 50号 武西良和

リヴィエール 157・158号 横田英子

《会員の詩書》 紹介文・山田兼士

葉師川虹一訳・リジアシムクレーテ詩集『白い虹』竹林館

呉屋比呂志『守礼の邦から』OFFIEKON

秋野かよ子『夜が響く』コールサック社

1946年生まれ和歌山の詩人による第5詩集。自らを「終戦の子」と呼び、私たちの戦争体験に思いを馳せると共に、現在なお戦い続ける人類の悲惨と

矛盾への批評精神を主として作品は展開する。同時に、自然界への眼差しは鋭くも優しく柔らかで独自の抒情も。

佐藤勝太『雑草の詩』竹林館

1932年生まれのベテラン詩人による第16詩集。いづれも見開き2頁の82篇の主題は多岐にわたるが、おもに来し方を振り返ったノスタルジックな抒情が前面に表れている。古いと死を見詰める誠実な眼差しが好ましく、現代社会への批評精神が柔らかく鋭い。

中尾彰秀『五行聖地』森羅通信の会出版

和歌山在住詩人による第24詩集は五行詩ばかり100篇を集めた一冊。生活、思想、宗教、社会、幼年などテーマは多岐にわたるが、特に批評意識による風刺詩に特徴が見られる。身近な詩人たちを題材にした微笑ましい交遊詩もある。スケッチ風の断章詩の集成。

原圭治『原圭治詩集』土曜美術社出版販売

香山雅代『雁の使い』砂子屋書房

1933年生まれのベテラン詩人による第12詩集。最近ではあまり用いられることのない雅語的表現が目立ち、独自の音楽を奏でている。宇宙、自然、季節など大きなテーマを扱う作品が目立つが、大上段にはなく身近なモチーフに結びつけているところに特徴がある。

山本由美子『霧の中のブルー BLEU BROUILLARD』竹林館

いづれも見開き2頁以内に収まる短い詩47篇。寡黙な作品群は的確に本質と輪郭を繊細な線で描き出している。特に、小さなもの、かよわいのものへの愛と労りは、全体を通して通奏低音のように穏やかに鳴り続けていて、一種の治癒力になっている。

和比古『遙の二重奏』ユニウス

《団体の会報・図書》

いしかわ詩人46号

いちご通信20号 大分県詩人連盟

岩手県詩人クラブ会報 第92号

大分県詩人協会 会報No.151

OCCOS 217号 大阪文化団体連合会

群馬詩人クラブ 会報No.305

高知詩の会通信 18号

埼玉県詩人協会会報86号

静岡県詩人協会会報133号

島根県詩人連合会報84号

詩界 265 日本詩人クラブ

詩界通信82号 日本詩人クラブ

鳥取県現代詩人協会会報「とっとり詩人」

長野県詩人協会会報138号

日本現代詩人会報150号 日本現代詩人会

福井県詩人懇話会会報97

福島県現代詩人協会会報118号

38号島根年刊詩集

第46号 島根県詩人連合

現代詩2018 日本現代詩人会

18福島県現代詩集 福島県現代詩人会

三重県詩人集vol.26 三重県詩人クラブ

《退会・逝去》

退会者 HISAKO、秋月夕香、今井知春、清水風杜、片沼靖一、須永 漱、谷澤理衣

逝去 平野裕子

《ホームページ案内》

○火垂るの墓・文学散歩の報告を掲載

○会員の詩は三篇、加藤千香子「日向ぼっこ」、伊藤眞司「牡蠣の焼ける匂い」、徳永遊「物言わぬ七月」(7月31日まで掲載)

関西詩人協会会報 第90号 発行者 左子真由美

関西詩人協会事務局 〒651-1213 神戸市北区広陵町1-28石井方
編集担当者のメールアドレス gyk00670@ifty.com 山田兼士

永井ますみ Tel/Fax 078-581-9582

次号原稿締切は八月末日です